

巻頭言

年頭所感



代表取締役社長
中村 信吾

新年おめでとございます。
二〇〇五年（平成十七年）がいよいよスタートしました。今年はどうなるのか予測をし、一年の行動指針を考えてみたい。恒常的な不安が懸念される中、民間の景気も頭打ちとなり折角芽が出かかった景気も後退を余儀なくされ建設業においても相変わらずの過当競争がさらに強まっていく年になるだろう。また今年の二月に発動される京都議定書における環境問題も将来大きな国際問題、また経済や企業活動に制

約を与えていくことと思う。さらに国の財政難による地方負担の増大や市町村の合併による混乱なども建設業に何かとインパクトを与え、さらに複雑さを増すことになることは否めない。

しかし私どもは重大な変化に手をこまねているわけにはいかず、その本質的な流れを充分つかみながら、むしろその困難をバネにして積極的に対応を計り企業活動のプラス面へもっていきたいと思う。そのためには企業の活動においても横並びの考えではダメであり、また個人においても従来の方から脱皮できないということでは限界がある。企業においても、個人においても従来以上に付加価値を上げることが大事だと考える。我が社は特に従来の本業の上に環境面（土壌浄化、流動化処理

工法、ソーラーなど）省エネの面（省エネ機器など）セキュリティ面（耐震、制震、光触媒、健康住宅）などにおいてさらなる付加価値をつけて技術やサービスを向上させ多様化するお客様のニーズに応えたい。また個人においてもただ働くのではなく「稼ぐ」という考え方が付加価値を上げることにつながると思う。まさに付加価値をつけるには「稼ぐ」ことである。建設業において環境は敵しいが悪いなりに先が見えてくる年になると思う。慎重かつ積極的に取り組んでいきたいと思っている。そして競争に勝つためには企業も個人も大いに付加価値を上げる年、稼ぐ年と位置づけ参りたい。

また本年は当社にとって会社設立五十周年（創業八十五年）の記念の日（六月十八日）を迎える意義深い

節目にもなり全員の力を集結して充実した一年になるよう祈念したい。今年も何かとよろしくお願い致します。

恒例の成田山の初詣四年の本年は、中村社長が会社を代表し社員代表土木本部の鈴木正グループ長と協力業者代表のセントラルバイピング高木社長の3名で、創立50周年、記念の年の祈願を致しました。



年男・年女 アンケート



- ① 2004年で一番印象に残ったこと ② 2005年の抱負



土木本部
大場 利貞

☑国内外で大震災の多い年、東海沖は？
☑健康で繁忙にも応える、気力と体力を培う。



東海アーバン
川崎 文男

☑家族の健康。次男の大学卒業。お爺さんになったこと。
☑家族の健康。企業としての飛躍（限りなく）川崎家の成長。



建築本部
鈴木 律邦

☑「災」が代表漢字に選ばれたように、大自然の驚異を痛感しました。国内どころか、世界的な驚異でした。また、悲惨な事件も多く発生した年でした。
☑何が起きてても不思議ではない世の中で、日頃の生活をいかに充実して暮らせていけるのか？家族・会社・社会との関りを常に年頭に置いた生活をして行きたいと思えます。



建築本部
竹内 一秀

☑静岡岡に赴任してから、親切にして頂きました旧清水市の大嶋組がなくなってしまうこと。
☑新静岡市にて工事看板の出せる工事の受注をしたい。



管理本部
市川 修平

☑やっぱりアテネオリンピックのメダルラッシュでしょう！日の丸魂を十分に見せて頂きました。
☑私の愛車のキャンピングカーで、以前北海道に行ったから今年あたりは沖繩にでも行けたらいいな〜！